

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290700150		
法人名	有限会社 三河接骨院		
事業所名	グループホームやわら		
所在地	千葉県銚子市後飯町3-18		
自己評価作成日	平成28年2月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku./12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート楽楽		
所在地	千葉県旭市口1004-7	TEL	0479-63-5036
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「なじみの町で共に生きる」を基本理念とし、家庭的な雰囲気を大切にそのらしさを引き出す支援を心掛けています。認知症の要介護者が住み慣れた地域で、共同生活住居にて家庭的な環境と地域住民との交流の下、入浴・排泄・食事等の介護その他の日常上の世話及び、機能訓練を行い、その有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるよう支援します。日々、楽しく過ごせることを目標とし、自分で出来る、自分でするという生活の意欲を高めていけるよう支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議には家族や関係機関の参加者も毎回多く、施設の事業報告やニヤミス報告等も報告され、参加者からの指導やアドバイスをいただいている。その時に家族からの要望などもいただいている。行政担当者との連携も密に取れており、法律の解釈や分からないところは相談できている。開設間もないので職員の定着や経験不足から支援の戸惑いや、職員の意向を聴いたり反映させるとまでの体制ができていない。第三者評価を受け、課題を明確にして今後の取り組みにしたいという姿勢は高く評価したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「なじみの町で共に生きる」を理念とし、利用者一人ひとりの主体性を尊重し、心のこもった対応を心掛けている。	重要事項説明書には、理念や運営方針の心構え等は記載されているが、職員の出入りも多く、管理者の交代などで、理念の意義についての話し合いもなく、管理業務に追われコミュニケーション作りの段階である。理念は揭示されていない。	理念については法人代表者をふくめ職員間で十分に話し合い方向性を深めていただきたい。 前回の期待したい事項に理念の揭示が求められていたが、今回、まだ実現されておらず、今期は、必ず実行される事が望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の商店など社会資源を積極的に利用し、馴染みの関係づくりを心掛けている。地域、近隣の催し物にも積極的に参加し、交流を深めていく努力をしている。	日常的に交流はされていないが、公共の施設の見学、近くの商店への買い物、お祭りなどには積極的に参加されている。お買い物やドライブなども取り組んでおり、楽しみにしている。	人手不足で回数は少ないように思われる。地域から孤立することなく積極的に深めることを希望します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者自らが、チャイムを鳴らし、聴での為にと、様子や情報を知りたいと立ち寄る方も出てきています。地域、商店の利用、雇用等の貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、利用者様ご家族、市町村の職員、地域住民の代表者等に参加していただき活動状況の報告、必要な助言等をいただいている。	運営推進委員会議は、2ヶ月に1回併設の小規模多機能ホームと合同で開催している。事業報告やニヤミス報告等も報告され、参加者からは適切な助言を頂き、サービス向上に活かされている。家族の参加者も多く行政との連携も取れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢者福祉課や地域包括支援センターなどの協力を得ている。課題解決に向けての指導を受けたりと積極的に協力関係を築くようつとめている。	市役所高齢者福祉課や地域包括支援センターの担当者との連携も密に取れており、法律の解釈や分からないところは相談できるなど、課題解決に取り組んでいる。	

[評価機関]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設前の道路事情から事故防止の為玄関の施錠については利用者の安全確保の観点から常にかけています。その他の拘束については行わない方向で取り組んでいます。	マニュアルは整備され職員にも周知されている。徘徊のある利用者様に、職員が目が届きにくい時は、入り口を少し狭くすることをご家族の了解を得て行う時がある。記録には短時間の行為が記載されている。出入口玄関前の道路は歩道がなく交通量が多く危険な為、玄関は24時間施錠されている。外出時は、スタッフが必ず一緒に出かけている。	マニュアルは短期間に作成され、職員の意見の反映も含め、学習もかねて見直しを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての知識を学び、日々の職務に活かし、虐待の防止に努めている。地域での研修会にも積極的に参加して学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様どうし良い関係ができるよう、一人ひとりが孤立しないよう職員が心配りに努めている。今現在では、利用者間で仲間意識も芽生えてきている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている。契約と重要事項についての説明は管理者が実施家族・本人からの問い合わせにはその都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的な利用者、そのご家族様等が意見・要望等表に出しやすい環境を心掛けている。2月に一度、運営推進会議の中でも反映させている。	面会時に要望など伺い、また、2カ月に一度の運営推進会議に参加される4～5名のご家族からも意見などが出されており検討しているが、意見箱の設置はされていない。	直接家族から意見や苦情等が言い出し難いことを理解し、職員や事業所側が聴く努力や意見箱の設置が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	少しずつではあるが反映に向け、努力している。	開設3年目を迎え、昨年末管理者の交代等があり、業務量の多さから、職員の意見や提案を聴く機会が十分にできていない現状がある。	新しい管理者のもとで月1回の職員会議だけでなく、日頃から職員からの意見や要望を聴き入れ、代表者は管理者も含め働く職員の想いや意見を聴く機会を積極的に設けていただきたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員については把握している。スキルアップ研修、資格取得に向けての取り組みについては積極的に支援・協力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	取り組む努力はしている。ミーティング開催、施設内研修も計画し、実施にむけて取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実施している。ケアマネ部会に参加事例検討会などで他の事業者から意見を伺うようしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話すことに耳を傾け、本人のつらい気持ちに寄り添い本人が困っていること、不安なこと、要望等を導きながら安心を確保するための努力に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様の意向を尊重しながらもご家族様の訴えにも目を傾け、話し合いを続けていくなかで両者が一致するニーズを導き出せる努力を重ねる中で両者が一致するニーズを導き出せる努力を重ねる中で信頼関係の確立に努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実施している。課題解決の為に必要とするサービスについての検討をするための担当者会議開催を提案し実施しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることを阻害せず、協力し、互いに助け合う関係づくりに取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の協力が不可欠であることを職員は認識し、ご家族様とは密に連絡をし、気軽に来訪していただけるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様が大切にしてきた馴染みの関係が途切れないよう家に電話がしたいと訴えがあれば電話等をしてご家族様と話せる支援を行っている。	面会は多く、本人の希望で自宅に帰るなど家族と話し合い帰宅や外食なども行っている。家族とは、こまめに連絡を取っている。	人員不足ではあるが利用者の大切にしてきた馴染みの人や場所との関係を途切れないよう工夫していただきたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様どうし良い関係ができるよう、一人ひとりが孤立しないよう職員が心配りに努めている。今現在では、利用者間で仲間意識も芽生えてきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	互いに連絡をとれるようにしてあり、必要があった時に相談・支援ができるような体制にしてあるが今のところ事例なし。依頼があれば対応していくようにする。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	実施している。利用者やご家族に話を聞き、その人にとってなにが必要か、どういう暮らしをしていきたいか情報収集に努めている。	その人らしく暮らすにはどのようにすれば良いのかを職員会議、ミーティングを行い、一人ひとりの思い、希望を話し合っている。	家族や日々の関わりの中から、利用者自身が決定する場面等を作り、職員との共有が望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員が話しかけたり、日々の会話、ご家族との会話のなかでコミュニケーションを取ることにより、そのなかで昔から現在までの状況を把握することができています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。利用者一人ひとりの関わり、日々の支援のなかで利用者一人ひとりの状態、有する能力の把握ができています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	努力している。定期的または必要時に話し合いを行い日々の状態を把握し、モニタリングを作成している。	前任のケアマネが一人で計画を立てていた。モニタリングは作成されている。介護計画は、その人らしく暮らすために、課題やケアのあり方について話し合い、アセスメントとモニタリング等、話し合いが不十分である。	前任者と短期間での交代で、管理者・ケアマネともに形だけではなく、新しいケアマネとご家族やチームの意見を反映した取り組みが求められる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実地している。日々の経過記録を個別に作成し、常に確認できるよう整理されている。職員間では申し送りノートに記載内容を確認し印鑑を押す事になっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	努力している。グループホームの機能について説明を行い、柔軟なサービス対応ができるよう勤務体制の調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	努力はしている。地域の見守り・声かけ支援などの協力が得られているが地域の行事参加にまでは実践できていないので、こちらから出向き、参加できるよう心掛けを努める。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	行っている。家族の付き添いが困難な方については、職員又は看護師が付き添い受診している。	本人のかかりつけ医院には、基本家族が付き添って受診されているが、緊急時は協力病院に看護師が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	実施している。バイタルチェック、服薬等については看護師と連携を図り、本人の状態にそ沿って受診等にも対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている。家族・看護師等と連携を図るため病室に伺う。また退院に向けてケアカンファレンスを開催のときは出席している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設では看取りの体制はとれていない。今後対応できるような体制づくりを検討していく予定。	開設から3年未満で、スタッフ等の入れ替わりがあり、看取りの体制はできていない。	準備期間を置いて看取りの学習や心構え、家族との連携なども深めて支援に取り組むことが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員に対し、実施できていない。看護師に対応してもらっている。マニュアルに沿って職員には伝えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	築けていないので今後、築いていけるよう努める。年2回の避難訓練を予定している。(27年4月・10月実地)	防災会社から施設の点検はされている。年2回の火災、、地震等の避難訓練はできている。マニュアルはありますが、災害等の委員会が作られていない。不備な点が多い。	近隣の住民や病院との連携の話し合いなどを深め、災害対策の整備を築いていただきたい。早急に取り組まることが望まれる。

[評価機関]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの生活歴を大切に、それぞれのニーズに沿って、誇りやプライバシーを損ねない支援ができるよう職員一人ひとりが心に留め努力をしている。	ゆったりとした生活が流れ、傾聴の姿勢で否定せず対応している。小規模多機能施設がフロアを挟んであり、交流も時々行われ、プライバシーを損ねない言葉かけや対応がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が常に自分の意思や感情を表せる状況はできている。なかでも自己主張することの少ない利用者様に対しては思いを表出できるよう配慮し、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々その人らしい暮らしを念頭に置き、支援にあたっているが、できていない所もある。「要介護者を尊重すること」はいつも心に留め、支援にあたっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援にあたっている利用者様の持ち物のなかでコーディネートし、尊厳を取り戻し、心も元気になれるよう思いを込めて支援にあたっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ボードを使用しメニューを知らせたり、それを活用し、ペースト食・刻み食の方に一品一品が何であるかを説明し、楽しく食事ができるよう心掛けている。	メニュー数も多く、色とりどりで量も多く、みなさん完食され、地元の食材を使ったり、誕生日会等には、手づくりケーキを作っておもてなしされている。メニューボードは昨日の献立で、まだ直されていなかった。	利用者様が楽しめるよう、毎日絵などを入れボードに当日のメニューを書き換えて頂きたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養状態や水分確保の支援はできている。食中毒の感染予防の観点から生ものは一度も食卓に出たことが無い。食中毒に留意しながらメニューに上がることの実現に向け努力したい。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できている。毎食後一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中一人ひとりトイレでの排泄やオムツの使用を減らし、トイレでの排泄習慣に向けた支援を実施しているが夜間は職員が一人であるため実施できていない。	一人ひとりの排泄チェック表があり、プライバシーも守られ配慮されている。夜間は、職員1人体制でオムツ使用、日中は、リハパンで、トイレ誘導が行われ、トイレでの排泄が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	疾病等に沿って取り組んでいる。自宅での様子を把握できていない。医師からの指示があるかたについて、指示に従い実施。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	実施できるよう声かけを行っている。最低でも週に2～3回は入浴できるよう限られた時間のなかで本人の希望に沿った入浴をおこなっている。	入浴日は限られた時間内で一人のスタッフが全員を入浴行うため、ゆったりと入浴を楽しむまでには至っていない。	入浴は、利用者にとってリラクゼーション効果もあるので、業務の在り方を検討し、職員の疲労も緩和でき、希望に沿った入浴の在り方を話し合っていたきたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠や休息の支援に配慮している。一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、寒い季節には湯たんぽや暖房機、加湿器具を使い、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	実施している。処方箋、説明書等をコピーし、管理し、看護師と共に確認し、一人ひとりが使用している薬の作用を理解し、安全な服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	少しずつではあるが実施に向け、努力している。張り合いや喜びのある日々を過ごせるように一人ひとりのちからを活かした役割をもつことにより張り合いのある生活を送れるよう支援に向け努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	少しずつではあるが、実行している。また、定期的に行うことができるよう努力している。家族の方の協力も視野に入れ、実現に向けて努力している。	管理者、ケアマネ等の交代の中、スタッフとのコミュニケーション不足のため希望にそった外出はできていない。	利用者の希望等をスタッフと共有し家族や地域の人々の協力を得られるようよい支援を行って頂きたい。

[評価機関]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の意向もあり、できていない。意思疎通のできる利用者様からの意見のあり、外出時にはお金を所持し買い物できるよう支援に向け検討中である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	できている。毎食後一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた支援をしている。利用者様にご家族等に電話したり、やり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い共用空間作りに努めている。季節感を思わせる物を飾ったり、取り入れたりと居心地よく過ごしていただけるような心配りを努めている。	天井が高く開放的であり、椅子も柔らかく職員の動きも見えてゆったりと過ごしており、利用者の家族が、四季折々の草花をプランター植えて持ってきて下さり、他の利用者を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに腰掛けや心地よいソファなどを置き、独りですごせたり、気の合った利用者どうして思い思いに過ごせるような居場所の工夫に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様やご家族と相談しながら使い慣れた物や好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるよう工夫・配慮に努めている。	ベッドは施設が整備し、クローゼットに私物の整理がされ居室空間が広々としている。椅子はないのでお部屋は寝るだけとなる傾向にある。利用者の使い慣れた物や好みのものが設置されいない。	小さなテーブルや椅子があると、一人で過ごす時間や家族と一緒にの会話など私的な時間の使い方など工夫していただきたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮できている。建物内部は全てバリアフリー化しているが自立した生活に対する工夫として特に行っていないが、今後、生活空間の工夫にも努めていきたい。		